

あさひ互近所ささえ～る隊 4年間のあゆみ

令和3年4月発行



互近所ささえ～る隊は、旧市町村単位の5地区と市全体で、各地域・集落に住民同士の助け合いを広めていく活動に取り組んでいます。



あさひ互近所ささえ～る隊がこの4年間で
取り組んできたことをご紹介します。

あさひ互近所ささえ～る隊・生活ささえ愛隊長
齋藤主税（NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター）

「おたがいさま。」これがこれからも身近なところに、日常的にあり続ける朝日地区であるよう、これからも頑張ります。

この冊子は、あさひ互近所ささえ～る隊が、この4年間でどのようなことに取り組んできたのかを、住民の皆さんに知っていただくために作成しました。ぜひともお目通しいただければ幸いです。

朝日地区では、地区内5つのまちづくり協議会、民生児童委員、高齢者福祉施設、ボランティア団体、社会福祉協議会、NPOの関係者で「あさひ互近所ささえ～る隊」を構成し、平成29年度から活動しています。

互近所ささえ～る隊とは、10年後・20年後も安心して暮らせる地域づくりをめざし、住民同士のつながりや支え合いの大切さを市民や関係者と共有しながら、住民主体のしくみづくりを推進する協議体です。

あさひ互近所ささえ～る隊 4年間（H29～R2）の取り組み一覧

平成29年度

- 地域包括ケアシステムの周知活動（4回）
- アンケート&聞き取り調査
- 檜原集落座談会の開催（2回）

ワークショップ形式で住民同士の話し合いを実施。住民・集落でできることは何かについて、アイデアを出しあった。



平成30年度

- 周知活動（6回）
 - 集落座談会の開催（長津・檜原・薦川で各1回）
 - 檜原プロジェクトチーム会議（1回）
座談会を踏まえ、檜原安心支え合い事業の詳細を検討。
 - 長津地区（笹平・瑞雲・小揚・釜杭）での事業説明会
各集落役員会で転倒予防教室、地域の茶の間の開催について説明。
- ※檜原・長津（4集落）でささえあい事業がスタート



令和元年度

- 出前講座（猿沢まち協：1回／民生委員協議会：1回）
この年から、まちづくり協議会が主催となり、あさひ互近所ささえ～る隊は企画・運営協力という形式での実施がスタート。
- 集落座談会（大須戸：2回／薦川：2回）
薦川では①緊急連絡先カードによる情報管理②共助による除雪のために除雪機購入が実現。
- 移動支援の仕組み構築に向けた予備調査
高齢者福祉施設の送迎車両（台数・空き時間帯）等を調査。



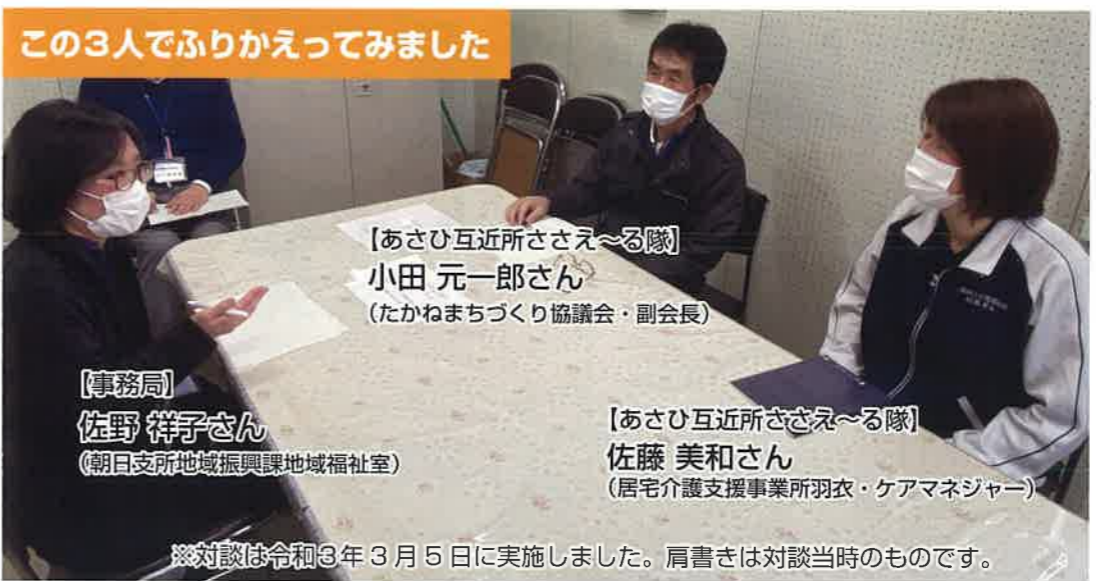
令和2年度

- 出前講座（三面まち協：1回）
 - 住民有志による移送支援実験（1回）
羽衣園・デイサービス長津・さわらびセンターの送迎車両を活用し、羽衣園で開催するフレイル講話&転倒予防教室に車を運転しない高齢者を住民有志で送迎する実験を実施。
（移動販売車での買物体験も同時開催）
 - 集落座談会（北大平：2回／堀野：1回）
- ※早稲田おせっかい隊が発足、活動開始



あさひ互近所ささえ～る隊の4年をふりかえる ～メンバー座談会～

あさひ互近所ささえ～る隊が発足してから4年。発足時からメンバーだったお二人と事務局担当職員を加えたの三人で、この4年間の活動をふりかえってみました。



この3人でふりかえってみました

【あさひ互近所ささえ～る隊】

小田 元一郎さん
(たかねまちづくり協議会・副会長)

【事務局】
佐野 祥子さん
(朝日支所地域振興課地域福祉室)

【あさひ互近所ささえ～る隊】

佐藤 美和さん
(居宅介護支援事業所羽衣・ケアマネジャー)

※対談は令和3年3月5日に実施しました。肩書きは対談当時のものです。

あさひ互近所ささえ～る隊が立ち上がったから4年が経ちます。スタート時に比べて変わってきたなと思うことは何ですか？

(佐藤) 最初は、何をしたらよいのか、何をやる組織なのかがまったくわからず、かなり戸惑いましたね。地域の方々へ説明しても、なかなか理解してもらえなかった。互近所ささえ～る隊のメンバーで寸劇をして説明したこともありましたが、(笑)

それが、この4年間で出前講座や集落座談会の開催支援、そして昨年11月には移動支援実験も実施するようになり、活動がかなり具体的にようになってきたと思います。移動支援実験はかなり反響があり、



移送支援実験の様子 (2020.11.6)



薦川集落座談会の様子 (2019.11.24)

買い物支援ツアーなどもやれないだろうか？といった声もあがるようになってきました。

(佐野) 最近では、互近所ささえ～る隊のメンバーが、独自に地域で動いてくださるようになりましたよね。檜原や早稲田、長津地区では、独自の取り組みがはじまりました。

(小田) 集落座談会は、本当に効果的だと思いますよ。今は困っていないなくても10年後は違う。住民がこのことに気がつく「きっかけ」になります。

薦川集落では、座談会がきっかけとなって、集落で除雪機を購入し、交替でお年寄りの家の周りなどの除雪を行うようになりました。これは

互近所ささえ～る隊は2年任期です。メンバーの入れ替わりがありましたか？

(佐野) 実は、互近所ささえ～る隊を卒業された方々が、ものすごく協力してくださり、本当に助かっています。

堀野では、集落側から「座談会を開催したい」と手が挙がり、とてもスムーズに開催できました。もともと区長さんが、ささえあいに理解があったこともありましたが、元ささえ～る隊メンバーが、座談会開催の意義を役員の方々に熱心に伝えてくださったことも大きかったようです。

(小田) だから、ささえ～る隊のメンバーが入れ替わることは、決して悪いことではないんだよ。(笑)

会議を通じて、他の地域・集落の取り組みを知ることができたり、今まで考えたこともなかった視点からの意見を聞くことができるので、参加することで得られたものは大きいからね。

(佐藤) この4年間で、朝日地区内の横のつながりが、かなりできてきた感じがします。会議の中で印象に残っているのは「つ

とても喜ばれています。また、各戸の緊急連絡先も集落で管理する仕組みもつくりましたが、これも座談会がきっかけでした。

(佐藤) 互近所ささえ～る隊の活動は、会議での話し合いを積み重ねながら、徐々に具体化していくというプロセスがいいですよ。

移動支援実験では、移動販売車での買い物実験も行いましたが、買物支援については会議の中で何度も話題に出していたので、これが具体化したのはとても印象的でした。



あさひ互近所ささえ～る隊の会議の様子 (2019.11.11)

あさひ互近所ささえ～る隊のこれからに向けて

(佐藤) いま、ささえあいの仕組みをつくっておくことが、将来への安心につながりますよ。今はささえ～る側であっても、歳を重ねたら、ささえられる側になる訳ですから。

(小田) 高齢化の進行は、なかなか止まらないと思う。高齢者ばかりの集落は確実に増えていく訳で、だからこそ、地域・集落での住民同士のささえあいが大切なんだと思いますよ。

(佐野) そうですよ。これからも頑張っていきたいと思いますよ！